

第60回小矢部市社会福祉大会

・・・ プログラム ・・・

と き : 令和3年10月30日(土) 13:00~16:00

と ころ : クロスランドおやべ「セレナホール」

日 程

12:30~13:00 受 付

《社会福祉大会》

13:00~14:00 ○ 式典(表彰)・議事

14:05~14:50 ○ 福祉作文朗読
(小・中・高校生 最優秀者 各1名)

○ 福祉教育実践事例発表
(小矢部市立東部小学校)

15:00~16:00 ○ 講 演
演 題 「子どもたちに居場所と出番を」
講 師 特定非営利活動法人 大空へ飛べ
おやべ脳トレクラブ

16:00 閉 会

◆「福祉の店」出店コーナー

12:00~16:00 エントランス

[溪明園・福祉作業所あけぼの・トライ工房・斉藤商店]

被表彰者 名簿 (敬称略)

★ 社会福祉協議会長 表彰

◇ 個人の部

村田登志夫 (石動町)	✓	青嶋 崇志 (清 水)
井端 紀子 (石動町)	✓	津島 幸男 (清 沢)
田村 洋志 (観音町)		山田 成敏 (内御堂)
福江 利江 (西 町)		吉岡美智子 (浅 地)
麻嶋ひろ子 (西福町)		大窪 孝信 (千 石)
福田 留孝 (後 谷)		米藏 正樹 (石名田)
岩峯 哲 (岩尾滝)		福永 哲也 (長)
新井 隆子 (後 谷)		宮本佳代子 (砺波市)
舘 信子 (埴 生)		森 奈津子 (水 牧)
高瀬 俊之 (石名田)		高瀬 文雄 (屋波牧)
河合千枝子 (田 川)		荒井真由美 (小矢部町)
高島 貞一 (松 尾)		今多 裕子 (末 友)
✓ 森川 修 (鴨 島)		小高亜紀美 (中央町)

◇ 団体の部

埴生コミュニティサークル

★ 市長 感謝

◇ 高齢福祉推進員の部

福江 利江 (西 町)	✓	青嶋 崇志 (清 水)
麻嶋ひろ子 (西福町)		中山 徳子 (ガーデンヒル千羽)
村上 健治 (道坪野)		

★ 善意銀行頭取 感謝

◇ 個人の部

✓ 沼田 義弘 (新 西)

◇ 団体の部

小矢部市長寿会連合会



福祉作文入選者（市内小・中・高校よりの応募）

◇ 小学生の部

最優秀	蟹谷小学校	澁谷 なな	6年生
優 秀	蟹谷小学校	田村虹々空	6年生
✓ 優 秀	津沢小学校	東 心美	5年生
✓ 優 秀	津沢小学校	長谷川日向子	5年生

◇ 中学生の部

✓ 最優秀	津沢中学校	上木 那奈	1年生
優 秀	大谷中学校	宮本 葵	3年生
✓ 優 秀	津沢中学校	船見 祐暢	2年生

◇ 高校生の部

最優秀	となみ野高等学校	桑原ジゼレ	3年生
優 秀	となみ野高等学校	藤永 時生	3年生

令和三年度 社会福祉作文 ◇小学生の部【抜粋】

◆◆優秀◆◆

福祉について学んだこと

津沢小学校五年 東 心美

私のお母さんはしょうがい者し設で働いています。私はお母さんの仕事場に何回か行ったことがあります。お母さんの仕事場には車いすの人やねたきりの人、自由に体を動かせない人がたくさんいました。私より小さい子やお兄さん、お姉さんがいて、みんな車いすに乗っていました。この時に、初めて「しょうがい者」の方を知りました。初めて見た時はびっくりしたのとかわいそう、こわいと思いました。また何で車いすに乗っているのだろう、しゃべれない人がいるのだろうかと思いました。それとしょうがい者の方たちをお世話している人がいることも初めて知りました。職員の方たちは利用者さんに話しかけておられました。利用者さんは話しかけられるとうれしそうにしていました。それまで私は暗い気持ちだったけれど、利用者さんの明るい顔を見て私もうれしい気持ちになりました。その後、職員の方にさそわれていっしょにゲームをしました。輪なげとボールすくいに参加させてもらいました。どちらのゲームも利用者さんが参加しやすいうように工夫してありました。一つ一つの細やかな工夫と思いやりが利用者さんのよろこびにつながっているのだなと感じました。

一日を通し、私の中で「しょうがい」は特別なことではなく「ふ通なこと」と感じることができました。体に人とちがうことがあるとしてもそれはかわいそうなことではないと思える時間でした。福祉を暗いイメージや特別なこととして受け止めていた私の考えが変わった一日となりました。

私のように差別的な考え方があったら悲しいことです。みんなの関心が明るいものになればらすてきな世の中になると思います。そのためにもこの経験を通し、自分のできることは何かを考え、実践していかれたらいいなと思います。人のためになるしょう来のゆめのためにも。

◆◆優秀◆◆

生きやすい社会をつくるために

津沢小学校五年 長谷川 日向子

先日学校で、車いす体験をしました。社会福祉協議会の方が来られて、最初に車いすのあつかい方を教えてもらいました。その後、車いすに乗る人と、押す人に分かれて、作ってあったコースを進んで行きました。コースの最後にはだん差があり、上るのがむずかしかったです。車いす体験を通して、体が不自由で車いすを使っている方は、いつもとても苦労して生活していることが分かりました。

私のおばあちゃんは去年亡くなりましたが、病気で体が不自由になり車いすを使っていました。そのため、おばあちゃんが過ごしやすいよう、手すりが付いていたり、おばあちゃんを通るところを全てバリアフリーにするなどの工夫がされていました。また、手すりがたくさん付いている部屋を作ったり、げんかんなどに手すりを付ける工夫もされていました。このような工夫のおかげで、おばあちゃんも車いすでも家の中で毎日過ごしやすかったと思います。そして、たくさんお買い物をしたり、お出かけに行ったりなどたくさん楽しいことをして幸せに過ごせていたと思います。

しかし、おばあちゃんと出かける時は車いす用の駐車場やトイレが必要です。健常者の私たちに出来ることは、それらの場所を本当に必要としている人のために空けておくことだと思います。それから、車いすの人のお出かけは、車いすに乗っている本人はもちろんのこと、そのかい助者も大変なことが多くあるでしょう。例えば、買い物の中には車いすを押さなくてはいけないし、荷物も持たなくてははいけません。私が車いすの方を見かけたら、その方とかい助している方に、

「何かお手伝いできることはありませんか。」
と、声をかける勇気を持ちたいです。

車いすの方だけではなく、つえをついているお年よりや赤ちゃん連れのお母さんなど、だれかの助けを必要としている人はたくさんいると思います。私たち一人一人がやさしい気持ちを持って、その方たちに声をかけたら、みんなが生きやすい社会をつくる第一歩になるのではないのでしょうか。

令和三年度 社会福祉作文 ◇中学生の部【抜粋】

◆◆最優秀◆◆

私と障がい者

津沢中学校一年 上木 那奈

私の身近に、ある女の子がいます。その女の子は、体は健康ですが、重度の知的障がいがあり、特別支援学校に通っています。

学校が大好きでいつもここにこ通っています。食べる事が大好きで、まだエジソンばしを使っています。上手に食べています。給食を楽しみに学校に行っているのかもしれない。

家にいる時は、よくテレビを見ています。アニメが大好きで一緒に見えています。アニメの歌に合わせてダンスを踊っています。手の動きをまねして主人公になりきっています。

そんな部分もありますが、とてもいやな部分もあります。言葉をまったく話すことができないので、自分の言いたい事を伝える為に、身ぶりや指を指したり、紙に書いたりして伝えていきます。しかし、上手く伝わらないと、「あー」と大きな声を出して暴れたり、泣いたりします。とてもわがままで自分の思い通りにならないとすぐに手を出してたたいてきます。そんな時がすごくくやしいです。

それに、自分の身の回りの事をするのが下手くそで手助けが必要です。トイレはよく失敗します。鼻が出て上手く拭けません。着替えをしても前と後ろがいつも逆です。外に出かけた時、動きが健常児と違うから一緒にいるのが恥ずかしくなりました。

実は、その女の子は、私の姉です。三つ年上ですが、まるで三歳の保育園児と変わりがありません。手助けが必要な為、いつもお母さんを姉に取られてしまいます。私はいつもがまんをしています。たたくられて泣いたことがいっぱいあります。でも私の姉であり家族として助けてあげないといけません。

ずっと一緒にいるので、姉の言いたい事がわかります。テレビが見たい、トイレに行きたい、おなががすいた、お母さんと呼んでいるなどです。

私は、私なりに姉に対してできることを手助けしています。お母さんのようにはできないけど、お母さんがすぐに来れない時には、少しでもお母さんの替わりになってあげています。

「どっちが姉なんだかわからない。」と、いやなことをいっばいされたから、心の中でいつも戦いながら姉と接しています。

健常児の姉弟の人には、この気持ちにはわからないと思いますが、障がいを持った姉弟をお持ちの人なら私の気持ちが少しわかるかもしれない。

まだ心の底から手助けしてあげたい、とは思えないのですが、心の中でいっばい戦いながら、私にできることを少しでも姉の役に立てれるように手助けしてあげたいと思っています。そして、健常児のみなさんも老若男女問わず身の周りの障がい者を助けて、少しでもみんなが楽に生きていけるような社会になってほしいと思います。

笑顔を守る

津沢中学校二年 船見 祐暢

僕は、小学校の総合的な学習の時間のなかで、「つざわランド」という高齢者健康施設に行きました。そこには、お年寄りの方がたくさんおられました。段々目が見えなくなったり、耳が聞こえにくくなっていく人、足に力が入らず、施設の人に手伝ってもらっているお年寄りの方もいました。こんな中、自分はお年寄りの方と交流できるのだろうか、とても不安になりました。不安ながら交流をしている時、自分の言った事が相手に伝わらず困っていました。その方は、耳が少し聞こえにくい人なんだと施設の方からお聞きしました。そこでぼくは、ジェスチャーや、耳元で少し声の大きさを上げて話すなどを見ると、うまく伝わりお年寄りの方も喜んでくださいました。その後、楽しくゲームや、歌を歌ったりして時間を過ごしました。お年寄りの方はとても楽しそうでした。

その帰り道、お年寄りの方がたのことを思いうかべながら歩いてみると、ふと疑問が頭にうかびました。「なぜお年寄りの方がたはいつも笑顔でいられるのか、そういえば、周りのお年寄りの方がたも、ずっと笑顔だったな。」と、目、耳、足などが少し不自由なのにどうしてそんなにずっと笑顔でいられるのか、その事が頭からはなれませんでした。その理由を知りたいと思い、二回目の交流の時「なぜそんなにずっと笑顔でいられるのですか？」とお聞きしたところ

「年寄りほだんだん体が不自由になるから、せめて毎日笑顔でおった方が楽しいでしょ。あんたも毎日笑顔を心がけてみたらどう。」と言われました。

この活動を通して、ぼくは、毎日笑顔でいればきっと毎日が楽しくなるということを学びました。その言葉を日々思い出し、毎日笑顔でいることを続けていきたいと思いました。これから日本は少子高齢化の時代になりますが、ぼくが将来高齢者を支える立場になった時は、お年寄りの方を笑顔にできるようにしていきたいです。